

「みんなで学校を創ろう!」中間報告に対するパブリックコメント

(令和5年8月25日～9月29日受付)

○どんな学校体制でもよいと思いますが、子どものやる気の芽、意欲そして探究心の芽を摘むような学校は望んでいません。

【回答】

そのように、努力してまいりたいと存じます。そのためにも話し合いには住民の皆様の積極的なご参加をお願いしたいと思います。

○図書館(まとまった部屋でなくてもよいのだが)は学校と地域の住民の共有とし、住民が学校に入り易い環境を創る。喫茶のできる場所なども設けて学校を地域の拠点として活用できるようにしてほしい。

【回答】

同様のことを、教育委員会事務局としても考えておりました。図書館は部屋として別空間にするのではなく、子どもたちの動く空間で本の配置をするのが最近の流れです。住民との交流スペースは小学校でもすでに作っていただいておりますが、それをさらにパワーアップさせたいと考えております。障がいを持った方々の居場所や活動の場として、また村外の方々との接点としてもそのような場所が校内にあるメリットやインクルーシブ教育を進める上での意義は大変大きいと考え、実現させたいと願っております。今後基本計画・基本設計～実施設計に至る段階でそのようなアイデアもたくさん出していただけるとありがたいです。

○日本人としての礼節は大切にしてほしいと思います。絵に描いた餅にならないようにしてほしいです。

【回答】

日本人としてのあるべき姿や礼節については、統合後の学校カリキュラムでも考えたいところですが、最初から形を整えることは今までの話し合いから馴染まないと考えます。また、教員の資質向上については、新しい学校のスタイルが今までの学校とは異なると予想されるため、先生方にも

新しい教育のあり方について研鑽を積んでいただきたいと考えております。「みんなで学校を創ろう！」の基本的な考え方は、教育委員会や一部の選ばれたメンバーで教育の方向を考えるのではなく、参加意欲がある村民の皆様に参加していただき、今後の村教育の構えを考えようとするものです。シーズン2に入ったことから、再度村民の皆さんにも参加を呼びかけ、みんなで将来の村教育についてアイデアを出し合い、皆さんで支えていただければと考えております。公立校ですので先生方は毎年異動します。スタート当初から住民が学校の様子を見ていただければ、地域の方々によって教育の本質は変わらないと考えておりますので、ぜひ地域の学校として今後もご支援とご指導を賜りたいと考えております。

○今回途中から参加したため、ほとんど説明が聞かれず…でした。すみません。これまでも出られる範囲でこの会議には参加してきました。私にも小中の子どもがいる中で栄村らしい小中一緒にどんな子でも受け入れられ、自ら学びたくなる環境、小規模でも元気な活力ある1つの学校になってほしいと保護者として願っています。ただ、小1～中3までの9年間は村内で気心知れた仲間と自由に独自の学習の仕方でよいが、その先、高校入試は確実にあります。村内に公文はあるものの、受験のための塾も飯山や津南まで行かないと無いです。受験を目の前にしても困らないよう、学力もしっかりつけていけるようにお願いします。

【回答】

村でも小中学校の先生方が「学力向上委員会」を組織し、毎年子どもたちの学力分析を行い、学力向上のための研究授業を計画し、授業改善を行っております。

学力保証に関しては、村には塾が少ない現状から年間一人当たり2900円のオンラインドリルを行えるよう支出しております。これは小中学校全員に該当します。ベネッセのドリルを用いていることからかなりの問題数を全国規模のレベルで行うことが可能となっております。運用に関しては各校にお任せしていますが、以前の事例では、自学の精神で自ら学習を進めていた小学生でも中学校の学習を行っていた事例も報告されていますので、ご家庭でもぜひ様子をご覧ください、積極的な活用を推進していただければと思います。

○「小規模特認校制度」についてお訪ね

今回学校視察した中でどの学校も圏域外から、児童・生徒を招き入れる特認校制度を活用して、特に美麻小中学校、八坂中学等、地元の児童た

ちよりも多くなったりしていても、やり方は種々あろうかと思いますが、両校共非常に効率よくうまく運営している様に感じました。

近隣ではお隣の「松之山小中一貫学校」でも制度を活用しているとの様子(妻有新聞) 個々では今年8月5日限定の見学体験会を計画したところ、31組の応募があったとの事、都会の人たちの教育環境に対する思いに、いかに関心があるかと思わせる出来事かと思われます。この地域では6・3制の時代も山村留学制度やっていたようです。

地域も同じ生活環境もほぼ似た様な所でも、かなり関心がある様な状況を見るに我が栄村ではどうでしょうか。今すぐ活用とはいかなくても、この制度の採用価値はどのようにお考えでしょうか。

今の現状を考えるに、誰もが今の学級人数に満足している人は居ないといってもいいでしょう。最近移住者は増えているようですが、子供が増える可能性はどうでしょう。このままでは、児童・生徒数は減りはこそすれ、増える可能性は？

最初訪ねた鬼無里小中学校では、せっかく一貫教育制度を立ち上げ軌道に乗ってきたところで、中学生の人数がかなり少なくなり、このまま独立校としていても、子ども達のためにも良くないだろうとのことで、近隣校への併合もやむなしとのニュースもありました。

「小規模特認校制度」を導入しても必ずしも成功するとは思われませんが、どのようにお思いでしょうか。

義務教育学校にするために今まではなくて良かったけれど、今度はどうしても必要な施設とか、スペースを創らなければというものはあるのでしょうか。

【回答】

大町市の中山間地校で実施されている「小規模特認校制度」は当村において小中統合後の学校でも採用したいと当初より考えておりました。来年度も県境を越え、入学を希望する話が現実にあることから、今後益々そのような話が出てくる可能性も視野に入れております。山村留学や小規模特認校制度においては子どもまたは保護者と共に暮らせる住宅や寮の存在も子どもの通学に関し、今後の施策を大きく左右します。そのことも今後の課題としながら、研究を進めつつ、現体制で可能な対応を行いたいと考えております。

また、義務教育学校とする栄小学校の改修計画につきましては、引続き「学校を創ろう！」の住民懇談会で必要な施設、スペースを検討してまいります。

○長い間のご苦勞をされて、栄村の学校を創るところまで進められたことに大変感動し、この度のコメント募集に参加しました。

はじめに、少人数でも栄村らしい教育のあり方、先進的な取り組みができる「義務教育学校」に賛成です。

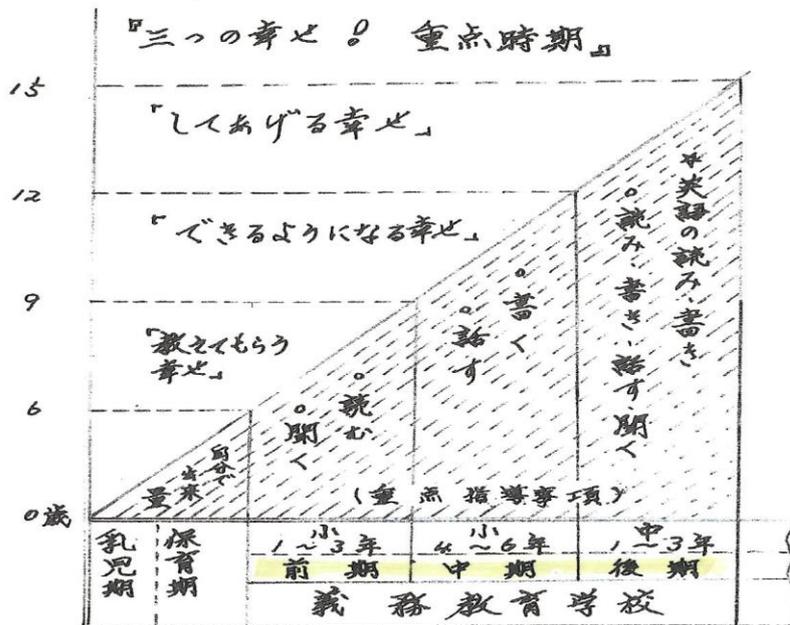
次に、学校教育には、ご存じのように教育の適切な時期があると思います。たとえば、児童生徒の発達段階、自然の四季、栄村の地域性、学校行事、自然学校、ジオパーク等、考慮して教育する時に、何をどの時期に重点的に実施したら、教育効果が上げられるか（指導計画の段階）考えるならば、義務教育学校にも、前期、中期、後期の区切りをつけてはどうでしょうか。【資料1参照】

それから、中学校だより（No.10）に、地域の方が集う「サロン」をつくろう！の呼びかけがありました。栄小校舎増築の機会に「サロン」兼「小植物園」を造ってはどうか。栄村は雪のある冬期が長いのでその間、植物に接することができません。植物園があれば、地域の人も学校へ行きやすくなると思います。【資料2参照】

また、卒業式には、児童生徒が種から育てた花を飾ることも出来るのではないのでしょうか。例えば、桜草の栽培。

夏に全校児童生徒が植鉢に種を播き植物園で花を咲かせることも可能。

資料1.



資料2.



。話し合いの参考例として載せました

【回答】

義務教育学校は小中一貫校の6・3制と異なり自由な区切りが可能です。義務教育学校の場合4・3・2をとる学校が多くあるように、発達段階や高校入試といった現実の問題もありますので、カリキュラムを中心として今後2年間でその部分を村民の皆さんと検討していきたいと考えます。

サロンと植物の関係ですが、昨年度から小学校ではすでにそれに近い取り組みを行っており、「みんなで一緒に〜」の活動の中で花壇での花栽培を地域の皆様と一緒にしております。また、ボランティアの皆さんの居場所として、サロンと同様の場所を校舎西に設け、子どもたちとの交流等も行われています。10月にはその取り組みが認められ、ベシアの教育助成として20万円が小学校に贈られました。今後もそのような歩みを止めることなく、統合後も継続したいと考えております。形としては、2番目のご意見にも書かせていただきました通り、お茶も飲み、誰とでも交流できるスペースとボランティアの皆さんの居場所としての空間設置をイメージしています。

○今後、校舎建設、学習内容、組織の編成など多義にわたっての課題が出てくると思います。学校職員にも関わる機会をつくっていただき、異動することは当然考えられますが、貴重な研修の場として組織に参加していただければいかがでしょうか。

・統合するが、「1+1=2」という考え方ではなく、「子供中心」に考え、「この組織は必要か?」「この活動は必要か?」逆に「(今までなかったけど) こういう活動、環境が欲しい。」という方向で進んでいけるといいのではないかと思います。

【回答】

これからの話し合いは、全体で一つずつ決めていくということが現実的ではないと考えますので、細かな部分については専門部会を立ち上げ、各部会で話し合いを重ねたものを全体会で諮り検討していくという流れが妥当と判断しています。今までも各学校園の管理職の先生方をはじめ、多くの先生方にご参加いただいておりますが、今後も貴重な研修の機会として話し合いにはご出席いただき、専門的な立場と現場目線から、これから理想とする学校づくりにご協力いただけるよう、教育委員会としてもお声がけさせていただきたいと思っております。

お忙しい中、村民の皆様より貴重なご意見を頂戴しましたことに心より御礼申し上げます。今後も今まで以上のご理解とご参加をお願いいたします。